

SHOW HEYシネマルーム

★★★

ポロック 2人だけのアトリエ

配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

2003 (平成15) 年10月10日鑑賞

<試写室>

Data

監督: エド・ハリス

出演: エド・ハリス/マーシャ・ゲ

イ・ハーデン/エイミー・マ

ディガン/ジェニファー・コ

ネリー

👁️👁️ みどころ

1940年代のアメリカの天才アーティスト、ジャクソン・ポロックの44才の生涯と彼を支えた女流アーティスト、リー・クラズナーとの愛を描いた2000年公開の映画。天才女流彫刻家とロダンとの愛を描いた1988年の名作、『カミーユ・クローデル』を彷彿させる秀作。精神的不安定と飲酒癖（アル中？）は、天才の属性か・・・？「注ぎ手法」と「滴り手法」による抽象画がポロックの特徴だが、その良さを理解するのは少し難しい・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<君は、ジャクソン・ポロックを知っているか？>

ジャクソン・ポロックは、1940年代のアメリカ、ニューヨークのグリニッチ・ヴィレッジを本拠地として活躍した画家。「抽象画」というのか「アート」というのか、また「画家」と呼ぶのか「アーティスト」と呼ぶのか、私にはよく分からないが、ポロックは、ピカソなどと並ぶ天才アーティスト、だそうだ。

残念ながら私は絵画の分野の知識は不十分。しかし君は、ジャクソン・ポロックを知っているか？

ちなみにこの映画は2000年に公開されたもので、アカデミー主演男優賞と助演女優賞の2部門にノミネートされたもの。そんな映画がなぜか2003年11月、日本で公開されることになった。

<ポロックの活動と彼をとりまく3人の女たち>

ポロックの絵はいわゆる抽象画。キャンパスの上に思いのままに絵の具を塗りつけてい

くもの。たしかにその作品は美しいが、正直言って私にはよく分からない。

1941年ポロックは、ポロックの画家としての才能を認めてくれる女性リー・クラズナー（マーシャ・ゲイ・ハーデン）と運命的に出会い、共同（？）生活を開始した。ポロックはもともと精神的に不安定。そして飲酒癖（アル中？）。こんなポロックを支えたのは、心からポロックの才能を信じ、尊敬しているリーだった。リーを演じたマーシャ・ゲイ・ハーデンは、この作品の名演技により、第73回アカデミー最優秀助演女優賞を獲得している。そして1945年2人は結婚し、田舎の農家に移り住み、静かな環境の下でひっそりと創作活動に従事した。

こんな前衛画家としてのポロックを支援し、毎月の「お手当」を支給したり、作品を買ってくれたり、さらには「個展」を開いてくれた富豪の娘がペギー・グッゲンハイム（エイミー・マディガン）。ペギーは、ホイットニー美術館を創設したゲルトロード・ホイットニーと並ぶアート界伝説の女性。彼女と同名のグッゲンハイム美術館は、彼女の伯父が創立したもので、彼女は長年にわたってポロックの良き「パトロン」となった。

晩年のポロックがのめり込んだ第3の女性は、画家志望のルース・クリグマン（ジェニファー・コネリー）。彼女は、アル中が進行し、創作に行き詰まったポロックに元気を与えてくれたが、同時にポロックの人生の破滅を早めることにもなった。

<ポロックのスタイルは注ぎ手法と滴り手法>

創作に行き詰まったポロックが「再生」したのは、1947年1月、偶然床に落とした絵の具からポロックの頭にひらめいた手法。それがポーリング（注ぎ手法）とドリッピング（滴り手法）だ。これはつまり、絵筆に絵の具をつけてキャンバスの上に描くではなく、絵筆をキャンバスに触れることなく、棒として使って、絵の具をキャンバスの上に飛び散らせたり、滴らせたりする手法だ。

この新しい手法により、1947年以後ポロックはスランプを脱出してよみがえり、次々と作品を発表。アート界の寵児となっていくた。

<「天才」の末路は・・・？>

ポロックの絶頂期は1949年8月の「タイム」誌に大々的に取り上げられた時。その後ポロックは再び酒に溺れ、作風も暗くなり、絵筆を手にもするとも少なくなっていくた。そのため次第にリーとの関係も険悪に。これは前述のように、ポロックが若い愛人ルースをつくったことも大きな原因だ。傷心のリーはポロックを残して、1人ベネチアへと旅立った。

そして1956年8月11日、酩酊状態のポロックは、車にルースと彼女の友人の女性を乗せて、狂ったような暴走。そして・・・？

<テーマはポロックと彼を支え続けた女性リーとの愛>

この映画のテーマは、天才アーティスト、ポロックとそれを支えた女性アーティストとの愛。同じようなテーマの映画に、天才彫刻家ロダンと彼を支えた女流彫刻家カミーユ・クローデルの愛を描いた名作『カミーユ・クローデル』（1988年）があった。

天才女流彫刻家カミーユ・クローデルは晩年精神を病み、1943年、精神病院でその生涯を閉じたが、ポロックを支えたリーは、ポロックの死後もニューヨーク・ロングアイランド、イースト・ハンプトンの「2人だけのアトリエ」で自分自身の創作活動を続けたとのことだ。

この映画でポロックを演じたエド・ハリスは、『スターリングラード』（01年）、『ビューティフル・マインド』（01年）、『めぐりあう時間たち』（02年）等に出演し、通算4回のアカデミー賞にノミネートされた名優中の名優。エド・ハリスは1941年から1956年までのポロック（29歳から44歳まで）を見事に演じているが、エド・ハリスは1950年生まれ（現在53歳）だから、ちょっと年齢的にムリがある・・・。

2003（平成15）年10月10日記